

認知症サポート医 1 万人に

2020 年度まで新目標（国家戦略）

2025 年度までを対象とする認知症対策の国家戦略（新オレンジプラン）について、政府は 7 月 5 日、2020 年度までに達成を目指す新たな中間目標を決めた。認知症の診断に関し、地域のかかりつけ医に助言する「認知症サポート医」を 1 万人、患者や家族が地域で安心して暮らせるよう支援する「認知症サポーター」を 1,200 万人、養成することを目指す。

現行の中間目標は 17 年度までにサポート医を 5,000 人、サポーターを 800 万人としていたが、16 年度末でそれぞれ 6,000 人、880 万人に達したため、引き上げることにした。

サポーターは地方自治体や企業が開く講座を受ければ、誰でもなることができる。

都道府県が指定し、認知症となった原因を調べる「認知症疾患医療センター」は、2016 年度末で 375 か所にとどまっていることから、引き続き 500 か所の設置を目指す。その際は複数の市町村で構成され、入院治療などの一般的な医療を提供する「2 次医療圏」に、少なくとも 1 か所を設けるようにする。

患者や家族が保健師ら専門家に悩みを相談できる認知症カフェは、全市町村に開設を呼び掛ける。

（福祉新聞・第 2819 号 2017 年 7 月 17 日）

「ノーマライゼーション障害者の福祉」7 月号・特集目次

＜特集＞重度知的障害者の地域生活支援

重度知的障害/自閉の息子の自立生活（岡部耕典）

岡部亮佑くんの自立生活を支援する（末永 弘）

盲ろう者の自立生活（福田暁子）

ヘルパー＝「自分の味方」（永井 誠）

支援者から介護サービスの利用を勧めよう（川口 有美子）

重度知的障害者の地域生活支援 障害者からの自立生活への提言

尊厳死ではなく尊厳生を（中西正司）

19 の軌跡 忘れちゃいけない—私たちは相模原市やまゆり園障害者殺傷事件を風化させない（見形信子）

私たちが暮らしていくこと（清水三季）

当事者研究を地域生活に活かす「水飲みが止まらない」（伊藤知之）

地域における障害者の暮らしを支える—医療的ケアが必要な人たちの暮らしを支える（田崎憲一）

重い障害がある人たちの地域での暮らしを目指して：のぞみの園の取り組み（古川慎治）

カナダにおける重度知的障害者の地域生活支援—個別化給付とパーソナルアシスタンス（鈴木 良）

スウェーデン：入所施設閉鎖と地域移行後の地域生活者支援（河東田博）